

東京の私学小学校で英語講師10年
東京家政大学児童英語地域支援者養成講座講師を経て現在公立小学校JTE6年目
同時に東京都中央区の自宅にて英語教室主宰



土佐公美さん

■ J-SHINE資格、上級指導者資格取得のきっかけ

きっかけは、転職する際の面接で「J-SHINE」資格の有無を問われたことです。中高教員免許は持っていますが小学校の教壇で英語を教える仕事を続けたいと考えたとき、対外的に、ある程度認知されたこの資格が必要と思いました。そこで半年かけて、小学館アカデミーの講座を受けて取得し、更に教壇経験時間が十分足りていたことから、いっきに上級者指導資格者を取りました。期待通り、長年のキャリア「+α」になり、現在に至っております。

■ 現在の活動状況

3年前に品川区のJTEの第一期・11名の募集がありました。雇用条件がコマ数×時間給ではなく固定給であったこともあり、相当な倍率であったと聞きました。書類選考のあと、模擬授業・英語でのインタビュー・絵本の読み聞かせ試験などの難関を突破し雇用された11人は、品川の3分の1の学校に配置され、新カリキュラム導入をまかされました。私もその一人として3日間の研修を受けて即戦力として現場に臨みましたが、毎月の研修連絡会や、自主研修会を頻繁に開き、教材や指導法を皆で検討した1年間は仲間にも恵まれて本当に中身の濃い充実した1年だったと思います。現在JTE3期生まで雇用され全小学校に2人ずつ配置されています。

品川の英語教育は基本がTTです。指導案はJTEが作成し前週に簡単な打ち合わせをします。決められたメソッドで指導を進めていきますがクラスコントロールや児童の呼名は基本的に担任が行います。最初「英語が苦手」と窓際に立っていた担任も3か月もすると一緒に教壇に立ってどんどん授業に入って下さいます。少しずつ、担任のロールを増やしていただきバトンを渡しています。勤の良い先生は、JTEの私が発した英語をその場で繰り返して習得し、翌週には自分のものにしてクラスルームイングリッシュとして使っています。素晴らしいですね！担任とのTTで一番気をつけている事は、

JTEの私は週一回45分だけこのクラスにお邪魔している！ということです。そこは、担任の王国なのです。彼らの独自のルールがあります。その担任ならではの児童の見取り方・アクティビティの進め方・ゲームの勝敗の決め方等がどのクラスにもあるのです。同じに授業内容を私は提供しても、そのクラスに応じてやり方変えていく臨機応変が必要であり、常に謙虚な気持ちをもって、担任をたてて授業を進めていきます。

授業後の一言二言は、必ずクラスの児童を褒めることを念頭に置いております。我が子を褒められることが担任が一番嬉しいのです。JTEでないと進められない専門的な内容もたくさんありますので、そこはしっかりこちらが舵を取ります。つまり、役割分担を明確にしておくことが大事なのです。

学校という教育現場では、しばしば校内研究や教育会の研究授業も一緒に行う機会があります。担任と検討会を重ね教材を準備するなどの時間を共有して、研究授業を成し遂げたときの満足度は、専科として一人で教壇に立つものとはまた違ったものがあります。辛いことは半分に。嬉しいことは倍に。・・・です。

担任は本当に児童をよく見ており児童を愛しているのだと側で感じますし、英語への取り組みも一生懸命です。JTEの私は、担任の秘めた力を更に伸ばすお手伝いができたら・・・と常に考えるようにしています。

JTEのやりがいはいはそういうところにもあるということが、最近よくわかります。この仕事は、まさに、「人間コミュニケーション能力」が問われる仕事です。学校と自分。担任と自分。そして児童と自分。の関係性を上手に保つことがTTのうまいく秘訣ではないでしょうか。

勿論、児童が英語大好きで、「え？もう終わり？」という言葉を聞くときほど、「ああ、この仕事をしていてよかった。」と冥利に尽きる瞬間はありません。児童からたくさんのエネルギーをもらって、ご褒美があるからこそ毎日楽しく仕事ができるのだと思います。感謝ですね??

2020年には5・6年生の外国語が教科化されます。国の作った教科書とICT教材も充実し、ボタン操作一つで最低限の授業を行うことができるようになると聞いています。しかし、やはり言語は「人が人」に教えるべきです。お母さんが赤ちゃんに言葉を教える経緯と同じです。血と心の通っていないロボットがいくら良い発音をしてもそこから言語習得をすることはなかなか難しいでしょう。言語には感情があるからです。

また、小学校の児童英語は「専門の指導法を習得した者」が指導するべきだと考えます。たとえばピアノが弾けたとしても、音楽を教えることはできませんよね。英語も音楽と同じで本来は専門性を問われる教科なのです。小学校免許を取得する過程に児童英語指導法を単位として増やす大学も最近が増えておりますが、それだけではニーズが追いつきません。せっかくJ-SHINEの資格取得者が世に多くいるのです。自治体がこの人材を使わない手はないと思います。予算のこともあるでしょうけれど、現場とJ-SHINEの資格取得者をマッチングさせるツールをもっと増やし、販路が広がることを望みます。担任＋資格保有者の組み合わせで、これからの英語教育の現場がもっと良いものになるはずですし、子供たちの為にも、そう心から願う毎日です

* J-SHINE 通信 Web ページ

この2017年10月号をはじめ、過去に発行したJ-SHINE通信はすべてJ-SHINEのWebサイトから配信しています。

こちらからご覧ください。

<http://www.j-shine.org/tsuushin.html>

今月の花 アジアンタム